



JHFレポート

12月号

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1998年

補助動力付 PG 日本選手権終了、萩原光が日本一に

10月24日(土)・25日(日)の2日間、群馬県新田郡尾島町の群馬 MPG スクールエリアで、第2回 JHF 補助動力付パラグライディング日本選手権が開催されました。

初日の午前中は雨でしたが、午後になって曇りに。さっそく競技を開始し、タスク1: 周回スピード&ターゲット競技、タスク2: ダーツ&L/D 競技の2本が成立。1本目で3900点を獲得し首位に立った千葉県の高原光選手が、2本目も1400点を取り、2本合計で他を大きく離してトップ。前回チャンピオンの村田福司選手が2位。そして2本

目1位の塚部省一選手が3位。

天気はどんどんよくなり、2日目に大いに期待したのですが、残念ながら強風のため競技できず、初日の成績が日本選手権の結果になりました。

今回の参加者は22名。唯一の女性参加者、櫻井美穂選手は特別大きな声援を集めていました。入賞者は以下のとおり。なお、大会報告は次号に掲載の予定です。

- 1位 萩原 光 5300点
- 2位 村田 福司 4600点
- 3位 塚部 省一 3800点



多くの協力を得て選手も観客も競技を楽しんだ。

- 4位 丹藤 善博 3600点
- 5位 久保田治人 3100点
- 6位 小川 峰雄 2900点

次期役員に立候補を!

現在活躍中の JHF 役員(理事と監事)は、来たる 1999 年 3 月 31 日(水)をもって、任期満了となるため、来年 3 月に開催予定の JHF 総会において、次期役員の見学を行います。

次期役員の見学は、1999 年 4 月 1 日から 2001 年 3 月 31 日まで。JHF の活動目的を理理解し、中立・公正に連盟事業を遂行できる、意欲あるフライヤーの皆さん、ぜひ役員に立候補してください。

JHF 選挙管理委員会

詳細については後日発表しますが、来年 1 月上旬に公示、2 月上旬に立候補の受付締切とする予定。JHF 選挙管理委員会は、公正な選挙のための準備をしているところで、皆様のご協力をお願いします。

スポレクぎふ'98 の PG & HG 大会、にぎやかに開催

10月2日(土)・3日(日)の2日間、岐阜県池田山エリアで「スポレクぎふ'98」のフリー参加種目としてパラ・ハンググライディング大会が開かれました。

2日は好天に恵まれ、参加者は、競技はもちろん地上での交流も心ゆくまで楽しんだようです。JHFからは、渡邊敏久会長、川添喜郎副会長、朝日和博常任理事が出席し、岐阜県フライヤー連盟の寄本博行理事長をはじめ、多くの方々と語り合いました。

スポレクというのは、全国スポーツ・レクリエーション祭のこと。スポーツ・レク



クレーンで吊り下げハングのシミュレーション。

リエーション振興のため、文部省、開催県、(財)日本体育協会(財)日本レクリエーション協会、(社)全国体育指導委員連合等が主

催する、生涯スポーツの祭典です。毎年開かれており、今年には第11回。来年は山形県で開催されることになっています。

正会員の皆さまへ

●新助成金制度のご案内

JHF 普及事業推進室

普及事業推進室は、その名の通りハング・パラグライディングの普及のために活動しています。体験講習会等の資金作りも仕事のひとつ。来年度は日本財団からの補助が打ち切られるため、日本小型自動車振興会に補助金交付の申請を行う案を作りましたが、申請が通ると JHF の負担額が大きすぎるので否決。今後、体験講習会を開催される正会員(都道府県連盟)には、「SSF スポーツエイド」という補助金制度を利用させていただくことになりました。

SSF とは笹川スポーツ財団のことで、日本財団とは別の公益活動(補助金事業)を行っている組織です。SSF の助成は、一般スポーツ団体の普及振興事業が対象で、正会員が直接補助金を受けるための申請を行うことができます。

今年中に、SSF から正会員各位に申請関連書類が送られますので、熟読のうえご検討を。なお、普及活動以外でもスポーツ振興の公益性が認められれば、助成の対象になります。

空のかお

その15



木村 勇(きむらいさむ)さん
木村 幸江(きむらゆきえ)さん夫妻
ハングはちょっと怖かったという幸江さんも、勇さんがパラに転向して、一緒に空を楽しむようになった。勇さんのフライヤー歴はハングも合わせると15年、幸江さんも10年になるが、「二人とも長くプランクがあったので、あせらずじっくり取り組みたい」と話すお二人の夢は、タンデムでクロスカントリーフライトをすることだ。

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 岡 良樹

今年は異常気象にみまわれ、ポイントPG大会の多くが不成立となり、惨憺たる有様。海外の大会に参加した選手たちに大きく水をあげられる結果となってしまった。

ご多分に洩れず(?)日本選手権も、昨年に続いて不成立。大会主催者・選手たちのエネルギーが報われないのは、とてもつらい。今年残りの大会ぐらいいは、思いきり飛んでもらいたい。そして、1900年代最後の来年こそは、何とか良い気象条件をお願いします、神様。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

HG競技委員会よりHGルールブック改正案を告知したことは前回お知らせしまし

たが、ご意見の受け付けは10月31日で締め切らせていただきました。多数の建設的なご意見をもとに、現在、競技委員会内で最終調整中です。平成11年1月1日施行を目指しております。正式決定後はポイント登録選手各位に郵送します。大幅な改正となりますので、大会主催者、選手の皆様には、よくお読みいただきご理解いただけるようお願い申し上げます。

HG競技委員会事務局 FAX0299-44-1346
http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF・HG.html

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

今年度のJHF教員検定会が進行中です。飛行実技検定は、山形・福岡の2会場がすでに終了しました。今年は天候に恵まれず延

期となった茨城での検定も10月中には終了する予定です。

現在、HGで約200人・PGで約800人のJHF教員がいます。今年は何人の教員が誕生するのでしょうか。

今後のスカイスポーツ界の発展に多大な影響を与える「新しい教員」たちの検定をどのような方法で、どのようなレベルで行うかが教習検定委員会のテーマです。

このJHFレポートを読んでいる方々はきっと過去に素晴らしい教員と巡り違い正しい教えを受けたものと思います。そして安全に楽しく空を飛ぶことを続けてこれたのでしょうか。教員とは一般の人達から見れば絶対的な存在であり、全面的信頼を抱かれる存在でもあります。もうすぐ誕生する新教員の活躍に期待しましょう。

JHF総合改革のあゆみ

総合改革委員長 川添喜郎

JHF総合改革委員会が諮問活動を開始して11ヶ月が過ぎました。すでに議事録等でお知らせしてありますが、委員会では、普通会员制度(フライヤー登録を含む)と制度の見直しを優先課題として会議を進めてきました。その2つの課題の中でも、特に普通会员(会費)制度の検討がより重要とし、優先して次の事項を理事会に答申し、決定されました。

- 1 JHF 普通会员会費制度を実施する。
- 2 JHF普通会员の会費会費は3500円とする。
- 3 現行のJAA フライヤー登録制度を移管の形で引き継ぐ。
- 4 制度の実施は1999年4月1日より2000年1月31日までの間に行う。

以上、時間をかけた割に意外に答申の内容が少なくと思われるかも知れません。それは次のような理由によります。

いまJHFは日本経済の動向と同じく、予算的に苦しい時代に入っています。この時期を力を含ませ凌ぎながら早く普通会员制度(F登録移管)実施をし予算の安定をはかる必要があります。総合改革委員会ではその必要性は全員が認めています。しかし改革には意見の違いが交錯します。実施を急ぐあまり安易な妥協や偏った方針を打ち出してはならないことも全員が認めています。このため最も骨格となる事項に多くの時間を割き、深い討議を続けてきました。上記4点の骨格は単純な決定に見えますが多くの要素を含んでいます。例えば会費3500円の内訳はどうか、フライヤー登録の移管の時期は、保険の内容はどうか等々。これらはそれぞれに関連しあい、一つだけを単純に決め付けられません。JAAとの交渉、保険会社との見積もり、集金システムの検討、発行システムとの関連等多くの方法論も表

裏一体に検討し確立する必要があります。

しかし、骨格が決まったことで具体性が出てきました。JAAとは移管について具体的な交渉に入っていますし、3500円の内訳の検討も詰めの段階に入りました。次号ではさらに詳しい内容が示せると思います。

一方、制度の見直しについては既に制度規定集の読み合わせ作業に入りました。今までの制度・規定は相関性に欠ける部分もあり、字句の統一性も不確かな箇所もあります。一字一句確かめる作業は大変ですが、委員全員気力で頑張っています。

尚、改革の方向について具体的なウワサもあるとの報告もありますが、議事録やレポートで正式に発表するものが正式です。今後、具体的な各種の契約や業務委託など公正な方法で行い、利権誘導などの誤解を受けぬよう情報も公開しつつ慎重に進める必要があると考えています。

日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)議事録

1998年度第5回委員会

日時:1998年8月20日(木)13時~17時
場所:航空会館6階602会議室
出席委員:斎藤紀、岡良樹、泉秀樹
(注)岡委員は当日の出席ではなく、後日に機体の登録審査を行った。
委任状:阿部郁重、下山進、小宮國男、幸路尚文

技術部会(型式登録審査)
パラグライダー・新規登録
・TREKKING式 URRACCO-SMALL型(合格:PI-639)
・TREKKING式 URRACCO-MIDIUM型(合格:PI-640)
・DAE KYO式 EDEL SECTOR TX #S型(合格:PI-641)
・DAE KYO式 EDEL SECTOR TX #M型(合格:PI-642)
・DAE KYO式 EDEL SECTOR TX #L

型(合格:PI-643)

・ユービー式 ブルースXS型(合格:PI-644)
・ユービー式 ブルースS型(合格:PI-645)
・ユービー式 ブルースM型(合格:PI-646)
・ユービー式 ブルースL型(合格:PI-647)

定例委員会

議事なし

1998年度第6回委員会

日時:1998年9月17日(木)13時~17時
場所:航空会館6階602会議室
出席委員:阿部郁重、斎藤紀、岡良樹、下山進、幸路尚文
委任状:小宮國男
オブザーバー:渡邊敏久、朝日和博
機体登録申請者:株式会社ラ・ムエッティ
技術部会(型式登録審査)
ハンググライダー・新規登録
・グッゲンモス式 Bullet RCS M型(合格:I-166)

・ラ・ムエッティ式 トップレス 128型(合格:I-167)
定例委員会
議事なし

県連の法人化をお考えなら.....

公共的な分野で活動している民間の非営利組織(NPO)を支援する、特定非営利活動促進法(NPO法)が12月1日に施行されます。対象となるのは、医療・福祉、環境保全、災害救援など12分野のNPOで、スポーツも含まれます。これらのNPOは以前よりも法人化が簡単になるとのこと。各都道府県庁に窓口があってNPO法の資料を入手でき、説明会も行われているので、興味のある方はどうぞ。



福島県ハンググライディング連盟

佐藤 常寿

福島県は面積では日本で2番目に広く、地理的には東北の南に位置しております。山あり海あり自然に恵まれ、高村光太郎作「千恵子抄」にも「ほんとうの空のあるふくしま」として紹介されているように、ハンググライディングをするには絶好のロケーションを持っております。しかも首都圏からのアクセスが良く、東北自動車道路や常磐自動車道路の整備で3時間前後の手軽さで来れます。また、平成7年からはこの2本の高速道路をつなぐ形で磐越自動車道路が接続されましたので、ますます便利になりました。いまや北関東といってもおかしくない地理的環境にあります。

そんななか福島県には現在10団体約200名の方が会員として活動しております。また、東北地域は県連の組織作りが他の地域に比べて早く、当県連も昭和55年から活動を開始しました。ハンググライディングの

普及と振興のために、各種のパラグライダー・ハンググライダー大会並びに安全講習会等を開催し、最近ではホームページ(URL <http://www.skysports.or.jp/fhf>)を開設するなど、積極的に活動しています。

フライトにおいては、「ほんとうの空のあるふくしま」という言葉とおり山と空のおりなす風景は一見の価値があり、しかもおいしいサーマルもたくさんあります。現在までに猪苗代から山形県天童(約70km)、滝根町あぶくま洞から太平洋(約30km)まで



HG日本選手権の舞台にもなった雄国エリア。



猪苗代エリア。「いっぺんきてみらんしょ。」

のクロスカントリーが行われております。また、毎年春先には茨城県の筑波山近辺から南風に乗れ、多くのフライヤーが福島県を訪れています。これからは、西風に乗れ、会津からいわきまでの約100kmのクロスカントリーのルートを捜しているところです。腕に自信のある方はぜひチャレンジしに来てください。

また、一般フライヤーにとっても福島県内に10箇所のそれぞれ特徴を持ったエリアがあります。いずれのエリアもアットホーム的で親しみやすく、しかもフライトコンディションにも恵まれ充分満足のいくフライトが楽しめます。

県連ニュース

北海道ハンググライディング連盟

去る6月に発生した死亡事故以来、飛行を自主規制してきた美幌峠が、行政関係各位のご協力により、10月17日(土)にエリアとして再開しました。あらためて故T氏のご冥福を祈るとともに、二度とこのような事故が起きないことを願います。吉野正規

青森県ハンググライディング連盟

10月17日(土)、大鱈温泉スキー場でPG助教員検定会を開催し、咲山栄・田中明氏の2名が合格しました。これで県内のPG助教員数は12名に、教員数は8名となりました。来年は県内初の女性助教員誕生が期待されております。古川正司

秋田県ハング・パラグライディング連盟

10月10日(土)・11日(日)に、稲川町の国見岳にてハンググライダーの大会(紅葉まつたけカップ)が開催されました。参加者の約半数が関東地方からのフライヤーでした。競技だけではなく、茸とり、栗拾い、温泉ツアー、夜のうたげ交流会など、盛りだくさんの楽しみ会でした。朝日和博

宮城県ハンググライディング連盟

私ども、宮城県連では10月21日から25日まで宮城県大和町で行われた「仙台インターナショナルバルーンチャンピオンシップ'98(1998熱気球ホンダワールドグランプリの最終戦)へ運営スタッフとして有志が参加しました。熱気球34機と選手200人が参加の本格的国際熱気球大会で、同じ空を愛する仲間として協力し熱気球の試乗会と共にパラグライダーの体験会も合わせて行う予定でしたが、残念ながら足場が悪く体験会は中止。しかしモーターパラグライ

ダーのデモフライトは観客の喝采を浴び、結果スカイスポーツ振興の一役をになうべき参加となりました。川越敬明



空を愛する仲間として熱気球大会サポートに。

栃木県ハング・パラグライディング連盟

10月24日(土)・25日(日)に群馬県尾島町で開催された、第2回補助動力付PG日本選手権で、栃木県の塚部省一選手が3位入賞! 女子の部優勝は、栃木県の櫻井美穂選手でした。谷古宇端子

岐阜県フライヤー連盟

10月3日(土)・4日(日)、岐阜県揖斐郡池田町の池田山フライトエリアにて「スポレクぎふ'98」のバラ・ハング大会が開かれました。開催前はずーっと雨が降ったりやんだり.....本当に大会になるのだろうかと心配されましたが、3日はみごとに晴れ、サーマルもほどよく上がり、絶好の大会日和となりました。

みんなで楽しめることを目的としているため、ショートタスクを組みましたが、皆さん予想を上回るスピードで走る、走る!パラグライダーでも、トップは余裕で30分を切り、ゴール。

会場の体育館横では、クレーンでハングを吊り下げて、シミュレーションを実施。飛行未経験の方にも楽しんでもらえました。

夕方からは歓迎レセプションが行われ、食事とワイン、ビール、日本酒を飲みながら、アトラクションで花火、インラインスケート、ライブコンサート、手品、地元の踊りなどを。我がフライヤー連盟の理事たちも踊り出し、楽しい会になりました。

翌4日も期待に胸を膨らませたのですが、朝から北風が暴れまくり、あえなくキャンセル。それでも楽しい大会でした。また池田山に飛びに来ていただけるのを、お待ちしております。小林豊治

岡山県ハンググライディング連盟

10月10日(土)・11日(日)に、第9回王子ヶ岳PG大会が、岡山県PGフライト協会主催で行われました。11月3日、文化の日には、SSK主催で第1回大佐山山装フライト祭が開催されます。これらのイベントをきっかけに、一人でもPG愛好者が増えますように! 沼田敦子

山口県ハング・パラグライディング連盟

毎年恒例の県連大会を、11月15日(日)に高照寺山で行います。今年は、初心者からベテランまで、だれが優勝するかわからないユニークな競技内容。今後、各地でこれが採用されるよう準備中です。

結果は次号で..... 江本俊信

香川県ハンググライディング連盟

10月10日、体育の日、坂出市のNTTグラウンドにて、PG無料体験会を開催しました。初めてにもかかわらず、53名もの参加があり、天気もまあまあ。まずまず成功といったところでした。参加者には、バラを始めてみたいという人も多く、裾野を広げていく大切さを実感しました。大浦昭一

私たちの

クラブ

です!

Sky Angel Flying Club

スカイエンジェル・フライングクラブ

千葉県からは「スカイエンジェル・フライングクラブ」の紹介をしたいとおもいます。ショップスカイエンジェルができてから早16年。前身のクラブから数えれば20年近くになります。初めはハンググライダー専門のスクール・ショップとして千葉県君津市に店を構えました。そのころは海の物とも山の物ともわからない「スカイスポーツ」をやるという人はひと癖もふた癖もあるような人たちで、ショップの中は怪しい雰囲気でした。ショップの前まで来て帰ってしまったことがある人もいたくらいで、「スカイスポーツ」と言うさわやかな響きとはずいぶんイメージが違っていたようです。ショップのソファーにはいつもお客



フライト以外の活動も大いに盛り上がります。

様よりも犬の方がふんぞり返っている有り様。それでも文句を言う人もなく、いつもわいわいしていました。飛ぶことならなんでも好きなのでトライクをやっていたこともあり、現在でもモーターパラのクラブがあります。現在の主力はなんとと言ってもパラグライダー。老若男女様々な人たちがいます。「昔に比べたらスカイスポーツも一般的になったのだなあ」という感じです。

千葉県のメインエリアと言えば「東京湾観音エリア」。関東では珍しい湾岸リッジエリアで、夏には東京湾に吹き込む安定した海風のおかげで長時間の楽チンソアリングが可能です。この安定したリッジリフトを利用してハンググライダーのスピードレースをしようというのが「トウキョウベイ・ハンググライディング・エアレース」です。この「東京湾観音エリア」も現在はクローズ中です。市が国定公園であるこの一帯の遊歩道を整備する関係で遊歩道整備が終わるまでは自主的にクローズしているため、次のオープンにはより使いやすいエリアになっていることと思います。

現在は南風の時には房総半島最南端の白浜エリアで活動中です。こちら風光明媚



東京湾観音に見守られて海辺のソアリングを。

なエリアです。

県内には北向きのエリアもあり、冬は主にこちらで飛んでいます。「鴨川嶺岡浅間」エリアです。ここは内陸の山エリアなので、サーマルソアリングの練習には良いところです。クラブではこのエリアを使って「クロスカントリーリーグ」を毎年開催しています。ハング・パラ共に期間中の飛行距離記録2本の合計で最長(パラは2倍掛け)の人が優勝で競っています。ハングでは最南端の白浜ランディングまで約30km 飛びきっていますから、現在はこのゴールを狙ってパラフライヤーががんばって挑戦しています。目標を持ってクロスカントリーをおこなうことでパイロットの実力アップに一役買っているのですが、優勝者はエントリーフィー総取りなので気合いの入っている人も結構います。

各地にツアーも積極的に出ていますのでエリアで一緒になったときにはよろしくお願ひします。また、千葉のエリアにも是非おいでください。

栗田 賀尉 記

大会報告

'98 デサントバードマンカップ

獅子吼大会(HG)

1998年10月8日～11日

石川県石川郡鶴来町獅子吼高原

- 1位 波田野康雄 兵庫県 1232点
- 2位 大門 浩二 茨城県 1224点
- 3位 三浦 健二 大阪府 1081点
- 4位 藤田 直己 東京都 1041点
- 5位 阿部 貢造 千葉県 940点
- 6位 金子 外幸 石川県 866点

女子の部

- 1位 藤田 恵里 東京都 247点
- 2位 安楽恵里子 東京都 247点
- 3位 岡田 明子 静岡県 154点

大会4日間のうち、後半の3日間は天気に恵まれ、サーマルコンディションもまずまずだったが、フォローの気圧配置が続き、テイクオフできなかった選手が目立った。1本目のスピードレースでトップの1000点を取った波多野選手を、2分遅れの2位で追う

大門選手が、2本目の距離得点で僅かに逆転。そして最終日、フォローになる直前にテイクオフした2人は、山の上にある難関の第5パイロン、梨笠鉄塔へ。しかし大門選手はほんの少し高度が足りず、パイロン目前であきらめ、ランディング。ギリギリの高度でパイロンをクリアした波多野選手が僅差で逆転、大門選手の2連覇を阻止した。

検定会開催予定(1998年10月25日現在)

P: PGパイロット学科 NP: ノービスパイロット学科 HG: HGパイロット学科 XC: クロスカントリー学科
PW: 補助動力学科

種類	検 定 日	時 間	開 催 場 所	主 催 ・ 連 絡 先
XC	12/6(日)	18:00 ~ 22:00	広島県広島市安佐北区白木町井原	広島県連盟 TEL.082-231-2023
P・NP・HG・XC	12/6(日)	16:00 ~ 17:00	岐阜県揖斐郡池田町	岐阜県連盟 TEL.0585-45-9214
NP	12/12(土)	17:00 ~ 18:30	静岡県熱海市下多賀1507-1	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・HG・XC・PW	12/19(土)	19:00 ~ 21:00	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2	神奈川県連盟 TEL.0460-3-5391
P・NP・XC	12/20(日)	9:00 ~ 12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧1092-1	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
P・NP・HG・XC・PW	12/20(日)	13:00 ~ 18:00	群馬県利根郡白沢村上古語父道祖神9-1	エコーウィンドパレーPGS TEL.0278-20-9006
P・NP・HG・XC・PW	12/22(火)	17:00 ~ 20:30	神奈川県横浜市戸塚区川上町4-4	ヨコハマスカイスポーツ TEL.0460-3-6958
P	12/26(土)	17:00 ~ 18:30	静岡県熱海市下多賀1507-1	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・HG・XC・PW	1/31(日)	9:00 ~ 12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧1092-1	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
P・NP・HG・XC・PW	2/21(日)	18:00 ~ 20:00	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2	神奈川県連盟 TEL.0460-3-5391
P・NP・XC	2/28(日)	9:00 ~ 12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧1092-1	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

10月理事会

10月16日(金)13時30分～17時 東京都港区立生涯学習センター204研修室 出席：渡邊敏久、川添喜郎、鈴木康之、岩間雅彦、小林朋子、星野納、松田保子各理事 坂本三津也監事 欠席：朝日和博、関谷暢人各理事 宮川雅博監事

JAAとの交渉について報告

川添副会長より、9月24日に財団法人日本航空協会(JAA)会長宛で「フライヤー制度移管に関する要望書」を提出したと、報告あり。また、移管に関するJAAとの交渉内容についての報告も。

スポレクぎふ'98出席の報告

10月3日・4日に岐阜県池田町で開催された、文部省・岐阜県主催「スポレクぎふ'98」のフリー種目、パラ・ハンググライディング大会に、渡邊会長、川添副会長、朝日常任理事が役員として出席。

助成金申請について報告

JHF普及事業推進室、星野理事より報告。47正会員に助成金申請に関する情報を提供する。情報は「SSFスポーツエイド」について(本紙1ページ)。

事務局人事異動の報告

事務局員の小山朋子さんが退職、大室恵美さんが就職。

CIVL議案について報告

専門部海外局、小林理事より報告。来年3

月に開かれるCIVL会議の議題案を、引き続き募集。各委員長、正会員に文書で呼びかけている。

助成金申請について審議

来年度の普及活動(体験講習会)の資金として「小型自動車振興会助成金」を申請するかどうかを審議。申請が通った場合、原則として総事業費の半額が補助される。しかし現在のJHFにとって半額負担は重すぎるため、星野理事から出された申請案を否決(賛成1、反対4、棄権1)。今後の課題として、長期的かつ総合的な補助金事業の計画を立てて取り組むべきだ、連盟としての普及事業の取り組み方を考える必要がある、という意見が出された。

フライヤー登録制度移管について審議

前回理事会で、フライヤー登録制度を移管の形で引き継ぐこと、それを正式にJAAに申し入れることを決定。9月24日にJAAに要望書を提出した。今回は、フライヤー登録制度移管に伴い、JHF普通会員会費制度の実施時期を、1999年4月1日から2000年1月31日までの期間内にすることを決定(賛成5、反対0、棄権1)。

タンデム技能証規定運用について審議

前回、教習検定委員会から「タンデム技能証について、制度の重要性・必要性を考え、慎重に運用したいので、もう少し具体的運用方法の審議を行いたい。」という文書が提

出され、これを賛成1、反対4、棄権1で否決。6月総会で承認されたタンデム技能証規定の運用を推進することになった。また、渡邊会長から同規定について提言がなされ、次回理事会でその内容を協議することになった。(前号の「理事会ダイジェスト」には、渡邊規定案を審議すると記しましたが、上記のようになりました。)

レジャー航空無線について

郵政省から交付されることになった「お年玉付年賀葉書寄付金」からの補助金で行う予定の、スカイレジャー専用無線機の購入・配備について、経緯をよく知る川添副会長が担当することになった。

1999年度JHF予算案について協議

10月15日に開かれた「1999年度JHF委員会予算編成会議」の報告あり。日本選手権や世界選手権補助金の助成科目(どんな費用を助成するかを明確にしてはどうか、各委員会の通信費など事務局経費と一緒にしているものを各委員会でしっかり管理すべきだ、等の意見が出た。

*

「理事会ダイジェスト」は、理事会で話し合われたこと、決まったことをお知らせしています。理事会の議事録は、各正会員(都道府県連盟)に送られるので、必要な方はそちらをご覧ください。

JHF広報出版局 松田保子

事務局から

送金に関してのお願い

1. 普通郵便で現金を送らないでください。紛失等の事故が起きても確認できません。
2. 現金書留で送金し、別便で申請書等を送る場合は、到着日が異なることがあるので、その旨のメモを両便に入れてください。
3. 現金書留より安く送金できる郵便振替や銀行振込をお勧めします。

郵便振替 No.00180-8-650201

(社)日本ハンググライディング連盟

銀行振込 さくら銀行 新橋支店

普通 3517333

(社)日本ハンググライディング連盟

4. 郵便振替または銀行振込で送金された場合、当事務局に入金の通知が届くまで若干時間がかかります。申請書・注文書等を送る際は、送金を確認できるもの(コピーで結構です)を必ず同封してください。申請・注文と同時に入金を確認できないと、受理できません。

5. 郵便振替・銀行振込で、内容の不明な入金が多々あります。預り金として処理して

いますが、長期にわたると混乱するので、3ヶ月を過ぎても不明の場合は、返金させていただきます。 事務局長 横尾和彦

事務局員交替のお知らせ

事務局員として長年JFHでご尽力いただいた山田房子さんと、小山朋子さんが退職されました。かわりに大室恵美さんが新たに戦力に加わりました。離れていくお二人には心より感謝申し上げます。そして大室さんにはJHFのため力を発揮してもらえよう期待します。 事務局長 朝日和博

事故を考える 事故の減少を願って

ハング・パラグライディングの事故を1件でも減らしたいとスタートした「事故を考える」を読んで、和歌山県フライヤー連盟の大江一美さんが次のような意見を送ってくれた。実際に起きてしまった事故の報告だけでなく、大江さんがお考えのように多くの情報を提供してもらうことは、事故防止にたいへん役立つだろう。実行の方法をさっそく考えたい。読者の皆さんも、どんな方法がいいか考えて、JHF事務局内の広報出版局にぜひご提案を!

*

10月号の「事故を考える 送電線に近付くな!!」は、たいへん参考になりました。

た。このような企画は、今後も続けてください。

さて、1:29:300、これは何の数字だと思いますか。ご存じの方もおられるでしょうが、まだご存じない方のために大雑把な説明をすると……

1は、死亡事故。

29は、けが(入院を必要とする)。

300は、ヒヤリとした経験がある。

つまり、ひとつの死亡事故があると、29人ものけがをした人(重大事故)があり、300人もの人がヒヤリとした経験を持っているということです。

これは、産業革命後に労働災害が多発した時代があり、労働災害ゼロを目指し

たある学者(名前は忘れてしまいました)が発見した「法則」です。

これを元に、たくさんの安全対策が考え出されました。そのひとつに、「ヒヤリとした経験」や「危なかったと感じた経験」を、どんな小さなことでも紙に書いて報告してもらおうシステムがありました。このシステムは、現在も行われているところがあると思います。

事故が起こる前に防ぐことの大切さを考えるなら、まず、教員・助教員のみならず、一般フライヤーからも、このような情報をできるだけ多く提供してもらおうシステムを考えてもよいのではないのでしょうか。

副会長 川添 喜郎

10月の報告。2～3日と「スポレクぎふ」のフリー種目パラ・ハンググライディング大会に渡辺会長、朝日常任理事とともに出席、大会は好天の中盛況。寄本理事長はじめ岐阜県連の皆様と交流、大会運営本当に御苦労様。5日・20日JAAとフライヤー登録移管に関する交渉。15日予算に関する委員長会、総合改革委員会、16日JHF理事会そして20日選挙管理委員会にそれぞれ出席。24・25日補助動力日本選手権inぐんまに出席、2本成立し大会成立。宮野理事長はじめ群馬県連、補助動力委員会の皆さん御苦労様でした。

いつになくせわしい1ヶ月でしたが、多くのフライヤーの熱意ある活動がJHFそのものなのだと改めて感動させられました。JHFはフライヤーから寄せられたお金と補助金等で運営されます。いまJHFとは何か、何を成すべきかを思うときこの感動が基礎であるとおもうこの頃です。

さて、選挙管理委員会が開かれ次期のJHF理事・監事の役員選挙の準備が始まりました。フライヤー諸氏より21世紀のJHFを担う熱意ある有能な候補者がどんどん立候補されることを今から期待しています。

常任理事 事務局長 朝日 和博

10月15日に委員長会議が開催されました。委員会活動はJHFの最も重要なものがあります。今年度の事業進捗状況報告と、来年度の事業計画について活発に意見交換を致しました。来年度の予算もさらに厳しい状況にあり、費用の多くかかる事業はできませんが、今こそフライヤーの組織としてその真価を発揮する時かと思えます。委員の方々の熱意こそ最大の原動力であります。自由な飛行を楽しむことができ、そしてそれがいつまでも続けていけることを願っています。

常任理事 岩間 雅彦

一般のフライヤーがJHFに期待する役割とは一体何でしょうか？ 総合改革委員会でもこの点は議論されていますが、はっきり言って一般フライヤーの声はなかなかJHFに届かない、というのが現状です。あるいは、一般フライヤーはJHFに何も期待していないというのが正直なところかもし

れません。私自身もJHFの委員・理事になるうと考えたのは、XC証の成立過程に疑問を感じたのが発端で、それまではJHFに対して無関心でした。収入が順調に伸びている成長期であれば、予算も潤沢にあり、誰が理事・委員であってもそれなりの活動が可能です。しかし、現在のように収入が減少している状況では、支出を切り詰めて効率的にお金を使うことが要求されます。切り詰める方は技術的な課題なので、理事や役員の能力と努力次第で対応可能だと思います。しかし、乏しい予算をいかに使うべきかという点になると、JHFにはまだコンセンサスがありません。そういう意味で、一般フライヤーのJHFに対する要望や意見をFAXやe-mail(もちろん郵政省メールでも)でどんどん事務局宛に送っていただければと思います。

理事 関谷 暢人

地球温暖化・エルニーニョ現象、今年も異常気象か？ 毎週末のフライト確率は下がる一方である。競技会も満足なポイントを計上することができず、PSランカーもストレスを溜めているようである。中にはすっかりあきらめているものもいる。

また、スクールの開催率も減少し、生徒がステップアップできずインストラクター達を悩ませている。

近年、ハンググライダーにしてもパラグライダーにしても、クロスカントリー記録が伸び悩んでいる。サンデーフライトでの獲得高度もおとなしいものである。フライヤー登録有効数が27,000人台になってきた。一人でも多くの愛好者を育てるためにも、現在、フライトしている人々に、安全に楽しいスカイスポーツを追求してほしい。

このスカイスポーツが地球を相手であることをつくづく痛感する。知らず知らずのうちに環境問題に思考が向きだしている。

理事 小林 朋子

カナダからベティーさんという68歳の女性が日本でパラグライダーをするために来日しました。68歳とは思えない若々しさで、エネルギーに全国を回っています。訪れたエリアは、どこも大変好意的に受け入れてくださって、快適に旅行を続けているようです。

暖かい人情に触れて、この世界の良さを改めて発見した思いです。ご協力くださっている方々、ありがとうございます。

このところ、海外とのコレボが多く、翻訳に時間を割くことが多くなりました。国際的にも日本が重要な役割を担ってきている現れのひとつだと思います。

(追記:ベティーさんは、都合で予定を繰り上げ帰国しました。ご協力に感謝！)

理事 星野 納

前号でお知らせした「全国普及活動のための助成金申請案」を理事会に提出したのですが、残念ながら結果は否決となりました。次年度の申請先とした「日本小型自動車振興会・日本自転車振興会」は、日本財団と異なり総事業費の半額補助が原則となっており、JHFからの出費は最低でも250～300万円くらいになってしまいます。これは、もし申請が受理されますと、現在のJHFの財政ではかなり無理な予算という結論に達しました。

従って過去3年間行ってきた普及推進活動は、全く同じ形態で継続することは不可能になりましたので、今後さらに普及活動を継続する連盟、新たに来年活動を開始する連盟には、「SSFスポーツアイド」という補助金制度(本紙1ページに概要記載)を利用していただくことになりました。

次年度JHFとして開催連盟へ助成できる補助は、最大で下記のような内容になると思います。

- (1)「JHFのしおり」を教材用に編集し、一般参加者人数分を提供する。
- (2)前年度同様、修了証を印刷し提供する。
- (3)前年度同様のスポーツ保険を準備する。

理事 松田 保子

来年度の事業計画と予算の詳細を考える時期になりました。広報出版局として、やりたいことは「てんこ盛り」になっているのですが、お金と人手を考えると、ゆっくり少しずつ進めていくしかなさそうです。とはいえ、普通会员の会費制度がスタートするのも、そう遠いことではないので、将来のJHFを頭に置いて、先々の準備をせねば！と思っているところ。

今年もあとわずか。防寒対策をしっかりして、セーフティフライトを。

JHF 技能証発行数 (1998年10月31日現在)					
ハンググライディング	P証	4,701	パラグライダー	P証	17,111
	C証	6,628		NP証	7,362
	B証	11,114		補助動力NP証	58
	A証	10,506		B証	37,707
	補助動力証	18		補助動力B証	120
	XC証	1,021		A証	40,273
				補助動力A証	144
		補助動力証	859		
		XC証	3,160		

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF レポート 12 月号 (No.143)

発行日 1998年11月20日
 発行 (社)日本ハンググライディング連盟
 〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F
 TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局
 印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。